道婦研連通信

―全道の婦人研究者の連帯めざして―

4　1978.6.15

○会員の近況から
○海外からの便り
○第6回例会報告.

会員の近況から.　高橋幸子さん（函館高専.工業化学科.地球化学）

現在の仕事上の問題について。私どもの学校には.遠距離通学の学生のために学寮があります（男子）。そしてそこの宿直勤務が交代でめぐってくるのです。ところで私は女性であるため.この勤務からはずれています（これは女子の深夜労働禁止の条文からくるのか男子寮であるからなのか私にもわかりませんが）。もっとも私個人の考えからすれば それ故に楽な訳です（もちろん宿直手当はなし）。ところが寮の問題.寮の改善.寮生の生活指導などの話題の教官会議では.私はやはりお客様にならざるを得ないし.そのために男の先生よりも仕事をしていないという見方をされてしまいます。先日.この宿直のローテーションについての多少の変更の説明があった教官会議の席では.私の前や横にいた先生が「高橋さんは宿直にあたらないのかい？同心実力があるのに」「こんどは女性を含めたローテーションを要求しようか」「女性差別だといってやったら」などと言われました。このよう意見が男性から出たことに内心喜んでいます。でもまだ少数ですし.私の所属する工業化学科の先生方からは出てこないのが残念です。

この.女性であるが故に.男性の多い職場であるが故に（学生の比率上も）不利益をうけることとしてもうひとつ研修旅行等の引率の問題があります。四年生の春休みに工場見学のため.関東.関西地方に4泊くらいの旅行がくまれます。学生の方はたとえ私一点でも.本人の責任と自覚のもとに同一行動をとるのですが.この引率のローテーションに私はくみこまれていないのです。まわりの先生の頭の古さということもあるでしょうが.自分としてどういう行動をとればいいのか困ってしまいます。

また お便りいたします。　（1978.3.30）